

そう だい
総 題 「ヨハネによる福音書の主題」
ふくいんしよ しゆだい

だいよん か しょうにん
第4課 メシアなるキリストの証人たち

こはま もりひろ
小濱 守宏

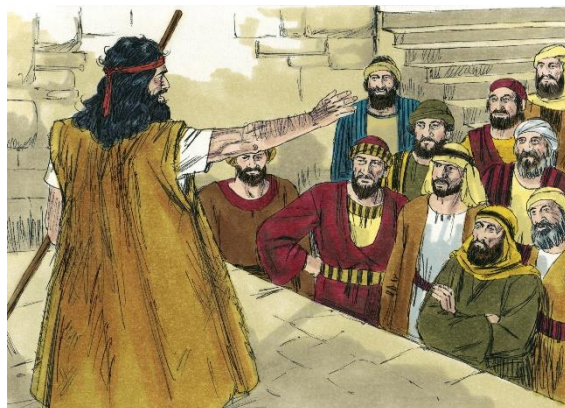
いち あんそくにち ご ご
1. 安息日午後

こんしゅう
今週のポイント

イエスがメシア（救い主）であると知った人々は、救われた喜びを周りの人々に伝えたい思いが強くなりました。今週は、キリストの証人の特徴について調べてみましょう。

に にちようび あか
2. 日曜日：バプテスマのヨハネの証し

バプテスマのヨハネが活躍していた時期の人々は、メシア（救い主）がやって来る事を強く望んでいました。バプテスマのヨハネは、「彼は公言して隠さず、『わたしはメシアではない』と言い表し」（ヨハネ1:20）しました。バプテスマのヨハネは、自分はメシアではなく、メシアが誰かという事を教える証人でした。バプテスマのヨハネは、預言が成就されたことを教え、人々の心を整える役割をきちんとはたしました。

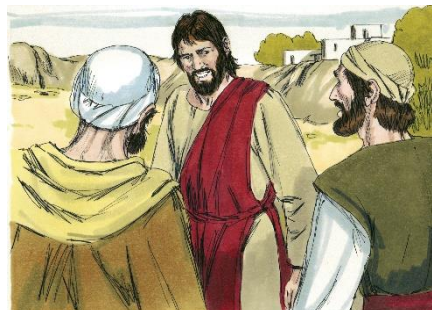


さん げつようび かみ こひつじ
3. 月曜日：神の小羊

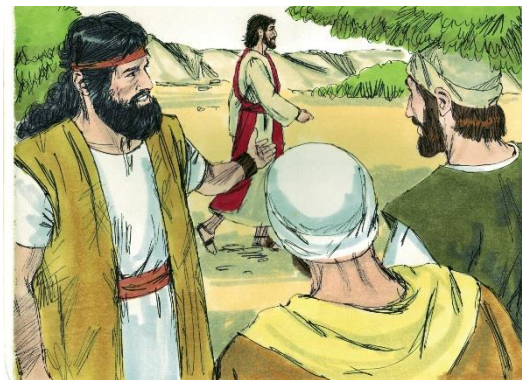
ユダヤ人は、自分たちを虐待するローマ人から救ってくれるメシアを待ち望んでいました。しかし、「ヨハネによる福音書」は、ユダヤ人の国からローマ軍を追い出してくれるメシアを待ち望むのではなく、旧約聖書（犠牲制度）で伝えられているメシアが来られる本当の目的を伝えるために書かれたのです。メシアであるイエスが来られた本当の目的は、私たちが犯している罪の罰を代わりに受ける事でした。聖句にはこのように書かれています。「人の子は仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのである。」（マルコ10:45）

4. 火曜日：ヨハネの2人の弟子

バプテスマのヨハネの弟子たちは、イエスが預言されたメシアであることを教えられ、「二人の弟子はそれを聞いて、イエスに従」(ヨハネ1: 3 7) いました。イエスと過ごすことによって、救いの素晴らしいさを知りました。この素晴らしい



教えを伝えるために書かれたのが「ヨハネによる福音書」です。バプテスマのヨハネの2人の弟子の1人、ヨハネが直接イエスから教えを受けて、この「ヨハネによる福音書」を書きました。

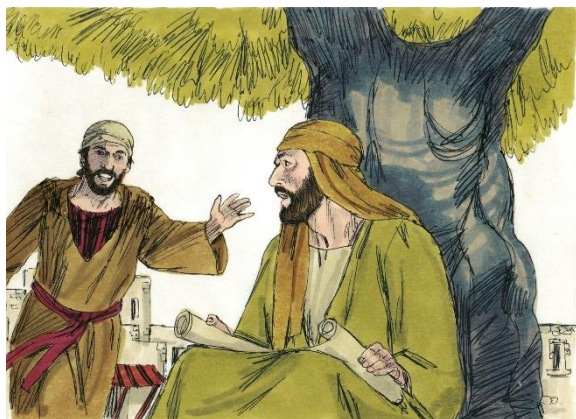


5. 水曜日：フィリポとナタナエル

イエスの救いを受け入れたフィリポは、友人であるナタエルにイエスを証しし始めました。イエスの証人は、誰かにイエスを伝えるという特徴があります。

12弟子の1人となったナタナエルの導かれ方を見てみましょう。ナタナエルは、自分勝手に思い込む見方をする人でした。イエスがナザレという小さな村の人であると知った瞬間、ナタナエルは「あんな小さな村から救い主が生まれるはずはない」と自分勝手に思い込み、「ナザレから何か良いものが出るだろうか」(ヨハネ1: 4 6) と言いました。そんなナタナエルにフィリポは、イエスの事を細かく説明するのではなく、「来て、見なさい」と言い、自分で確かめるという単純な方法で証しをしました。

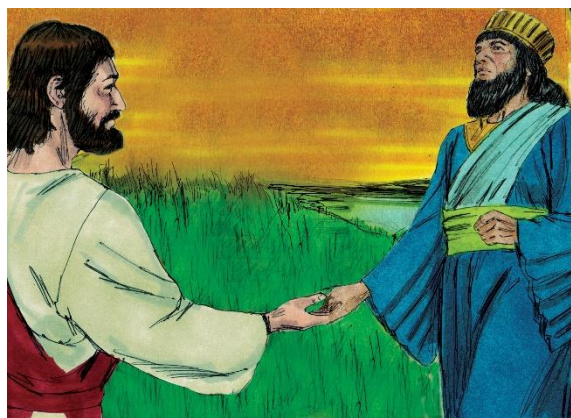
自分勝手に思い込む見方をするナタナエルに対してイエスは、神の力を使ってナタナエルがいちじくの木の下にいた事を伝えました。なぜナタナエルは、いちじくの木の下にいたのかというと、本当の神様を求めて祈っていたのです。自分勝手に思い込む見方をするナタナエルの祈りにも、イエスは答えられました。イエスの愛の深さに感謝します。



6. 木曜日：ニコデモの証し

ニコデモは、裕福(お金持ち)で地位もあり、民から尊敬されていた教師でした。そして、イエスの悪い噂を聞いても自分勝手に思い込む見方をしない素晴らしい人物でした。しかし、ニコデモは、まだ、イエスをメシアだとは、理解していませんでした。

イエスが来られた時代のイスラエル人の信仰は、間違っていました。アブラハムの子孫は、何も



しなくても天国に行けると思い込んでいました。ニコデモも同じように間違っ^{まちが}た考^{かんが}えを持^もっていました。イエスは、ニコデモに「あなたはイスラエルの教師でありながら、こんなこともわからないのか」(ヨハネ3:10)と叱^{しか}りました。間違^{まちが}いを指摘^{してき}されたニコデモは、自分^{じぶん}の考^{かんが}え、信仰^{しんこう}を改^{あらた}めました。

私^{わたし}たちは、ニコデモから何^{なに}を学^{まな}びますか。

7. 金曜日：まとめ

今週^{こんしゅう}は、※キリストの証人^{しょうにん}について学^{まな}びました。

※キリストの証人^{しょうにん}は、カルバリーの十字架^{じゅうじか}で私^{わたし}たちの身代^{みが}わりとして罰^{ばつ}を受け、死^しんでくださったイエスが神^{かみ}の小羊^{こひつじ}であるということ^{りかい}を理解^{りかい}しました。

※キリストの証人^{しょうにん}は、キリストの愛^{あい}に触^ふれることにより、自分勝手^{じぶんかって}に思い込^{おも}むクセを持^もっていたナタナエル、また、間違^{まちが}った信仰^{しんこう}を持^もっていたニコデモのように自分^{じぶん}の誤^{あやま}った考^{かんが}えや行^{こう}動^{どう}を改^{あらた}めます。

神^{かみ}の小羊^{こひつじ}の役割^{やくわり}を知^しった私^{わたし}たちも※キリストの証人^{しょうにん}として招^{まね}かれました。神^{かみ}の小羊^{こひつじ}であるイエスの愛^{あい}を友人^{ゆうじん}、知人^{ちじん}、家族^{かぞく}に伝^{つた}えます。

「・・・ヨハネは、自分^{じぶん}の方^{ほう}へイエスが来^こられるのを見^みて言^いった。『見^みよ、世^よの罪^{つみ}を取^とり除^{のぞ}く神^{かみ}の小羊^{こひつじ}だ。』」(ヨハネ1:29)

※キリストの証人^{しょうにん}：カルバリーの十字架^{じゅうじか}で私^{わたし}たちの身代^{みが}わりとして罰^{ばつ}を受け、死^しんでくださったイエスが神^{かみ}の小羊^{こひつじ}であるということ^{あか}を証^{ひと}しする人

